

令和4年度 県央相模川サミットの開催結果 及び 「カーボンニュートラル推進に向けた共同宣言」について

令和4年12月12日（月）、相模川の周辺自治体の首長が地域共通の課題の解決に向けて協議する「県央相模川サミット」が、厚木市役所において開催されましたので、結果についてお知らせします。

1 出席者

厚木市長 小林 常良（会長）
相模原市長 本村 賢太郎
海老名市長 内野 優
座間市長 佐藤 弥斗
愛川町長 小野澤 豊
清川村長 岩澤 吉美
神奈川県環境農政局長 鈴木 真由美（オブザーバー）

2 結果概要

カーボンニュートラル実現に向けた各地域の取組や課題等について情報共有を図るとともに、広域連携の取組について意見交換を行いました。

また、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、構成自治体が相互に協力・連携しながら取組を推進するという意志を示すため、「カーボンニュートラル推進に向けた共同宣言」を行いました（※共同宣言書は別紙のとおり）。



（共同宣言式の様子）

左から、小野澤 愛川町長、内野 海老名市長、小林 厚木市長、本村 相模原市長、佐藤 座間市長、岩澤 清川村長

問合せ先 広域行政課
電話 042-769-8248

県央相模川サミット

カーボンニュートラル推進に向けた
共同宣言

神奈川県央エリアの厚木市、相模原市、海老名市、座間市、愛川町及び清川村（4市1町1村）で構成する県央相模川サミットでは、台風や激甚化・頻発化する集中豪雨などの自然災害を踏まえ、相模川流域の水害対策に取り組んでいます。

これらの自然災害は、人の経済活動等に起因する地球温暖化が一因であることが指摘されています。

世界では、この地球温暖化に歯止めをかけるため、世界の気温上昇を工業化以前と比べ1.5℃未満に抑えることの必要性と、そのために2050年頃には二酸化炭素排出量を正味ゼロにする必要があることが共有されました。また、世界的な動きの中、我が国でも「2050年までにカーボンニュートラルを達成する」という目標が掲げられました。

カーボンニュートラル実現に向けた取組は、住民生活や経済活動などあらゆる分野に影響するものであり、カーボンニュートラルを実現するためには、地方自治体の役割は大きいものであると私たちは認識しています。

そこで、私たちは、将来の世代も安心して暮らせる持続可能な社会をつくるため、2050年のカーボンニュートラルという世界共通の長期目標の達成に向け、相互に協力・連携しながら取り組んでいくことをここに宣言します。

令和4年12月12日

厚木市長

小林 常良

相模原市長

本村 賢太郎

海老名市長

内野 優

座間市長

佐藤 弥斗

愛川町長

小野澤 豊

清川村長

岩澤 吉美